

## *Colpoda cucullus* における休眠シスト形成のシグナル伝達系と タンパク質リン酸化の解析

十亀 陽一郎<sup>1</sup>, 木下 英司<sup>2</sup>, 小嶋 克彦<sup>3</sup>, 竹下 敏一<sup>3</sup>, 松岡 達臣<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>高知大・理・生物科学, <sup>2</sup>広島大・院医歯薬・医薬分子機能, <sup>3</sup>信州大・医・免疫・微生物)

**【要旨】** 我々は現在までに、繊毛虫 *Colpoda cucullus* の休眠シスト形成の細胞内シグナル伝達系は、接触刺激依存的に細胞内に拡散した  $\text{Ca}^{2+}$ により活性化され、その下流において cAMP/PKA 等のキナーゼの働きでタンパク質群のリン酸化 (Phos-tag/ECL により検出) がおきることを明らかにした。さらに、抗リン酸化セリン抗体を使った免疫染色により、これらが大核と細胞表層部に局在することがわかった (大核には 33 kDa タンパク質が局在)。本発表では、マスマスペクトル解析によるタンパク質群の同定とそれらのシスト形成における機能について考察する。